



[本コミュニケーション・オン・エンゲージメントが対象とする期間]

開始日：2021年8月29日 終了日：2023年8月28日

国連グローバル・コンパクトへの継続的支持の宣誓書

ステークホルダーの皆様へ

筑波大学は、人権、労働、環境、腐敗防止に関する国連グローバル・コンパクト（UNGC）の10原則を支持することを確認し、ここに表明いたします。これは、UNGCに対する本学のコミュニケーション・オン・エンゲージメントです。皆様のフィードバックをお待ちしています。

本学は、UNGCの10原則を促進していく所存です。

また、UNGCの10原則を本学の戦略、文化および日々の業務の一部にしていくことと、引き続き持続可能な開発のための2030アジェンダ（SDGs）達成に貢献していくことを約束します。

本学の主要なコミュニケーション媒体を通じて、UNGCの10原則に対するコミットメントをステークホルダー及び公に対して明言いたします。

このコミュニケーション・オン・エンゲージメントでは、本学をはじめとする各種組織に対して提案されたUNGCおよびその原則を支持するために本学が行った取り組みについて説明しています。

会員として得られた他社・団体に関する情報を第三者に漏洩しないことをお約束します。

2023年8月28日

筑波大学

学長 永田 恭介

【取り組み状況】

1. SDGs にかかる授業科目を開講

本学は、国連が提唱し持続可能な成長の実現を目指す世界的な取り組み「国連グローバル・コンパクト（UNGC）」に2017年8月に加盟し、その取り組みの一つとして、2018年度より、未来構想大学講座「地球規模課題へのアプローチ」（学士課程向け）を開設している。また、2017年度よりSDGsに関連した大学院共通科目「地球規模課題と国際社会」（大学院課程向け、個々のSDGsの開発目標に関連した計7科目）を開設している。

○参考情報

地球規模課題へのアプローチ：<https://www.tsukuba.ac.jp/education/ug-courses-special-lectures/pdf/splec5.pdf>

地球規模課題と国際社会（P13を参照）：<https://www.tsukuba.ac.jp/images/ggec2023.pdf>

2. 地球規模課題学位プログラム（BPGI）における人材育成の継続

2017年10月に、地球環境の変化や世界の人口・食糧問題など幅広い分野の知識を通して地球規模の課題を解決できる人材を育てることを目的として、地球規模課題学位プログラム（Bachelor's Program in Global Issues：BPGI）を開設し、学生に地球規模課題に関する幅広い知識とその課題解決のための実践的な能力を、PBL（Problem/Project Based Learning）形式により教授している。

○参考情報

地球規模課題学位プログラム：<https://bpgi.tsukuba.ac.jp/jp/>

3. グローバルイノベーション学位プログラムにおける人材育成の継続

2017年度に、大学院修士課程において、国際連携食料健康科学専攻【GIP-TRIAD】（ボルドー大学と国立台湾大学との3大学による国際共同学位プログラム）と国際連携持続環境科学専攻【JMSSES】（マレーシア工科大学日本工学院との国際共同学位プログラム）を開設した。GIP-TRIADは、食料と健康という地球規模課題について、研究開発と社会ニーズを橋渡しすることのできる高度専門職業人の育成を目的としている。JMSSESは、持続性と環境に関する地球規模課題の解決に貢献できる国際的な高度専門職業人の養成を目指している。

○参考情報

国際連携食料健康科学専攻【GIP-TRIAD】：<http://www.gip.tsukuba.ac.jp/>

国際連携持続環境科学専攻【JMSSES】：<https://www.ses-tsukuba.jp/>

4. 筑波会議2021及びTGSW2022の開催

2021年9月に、世界の産官学の優秀な若手人材を主役とする討論の場として第2回筑波会議2021をオンラインで開催し、「Inclusive Innovation for the New Normal」をメインテーマに、「SDGsのための基礎科学、グローバルサウスからの視点」や「Beyond SDGsの国際的共創戦略 人文社会科学の役割」など39のセッションを実施した。また、2022年9月には、国際的な連携ネットワークの

構築を図るとともに、高い研究レベルに裏付けされた「知の創造」を行い、Tsukuba の地から世界に向けて「地球規模課題」の解決策を発信していくことを目的とする通算 12 回目の Tsukuba Global Science Week2022 (TGSW2022) をハイブリッドで開催した。

○参考情報

筑波会議 2021 : <https://tsukuba-conference.com/2021/>

TGSW2022 : <https://tgs.w.tsukuba.ac.jp/TGSW2022/>

5. 国連大学 SDGs 大学連携プラットフォーム (SDGs-UP) への参加

2020 年に国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) が設立した SDGs-UP に参画し、SDGs プログラム分科会に参加している。これは、SDGs・ESG への世界的関心が高まる中、この分野において日本の大学全体が連携して取り組むことを目的として創出された SDGs 推進に積極的な大学間のプラットフォームである。本学はこれに参画することより、他大学とグッドプラクティスを共有し、他大学と連携して人材育成や成果発信を行うとともに、これらを通じて、SDGs の取組み及びステークホルダーとの関係強化と国際社会でのプレゼンス向上を図っていく。

○参考情報

SDGs-UP : <https://ias.unu.edu/jp/sdg-up>

6. カーボン・ニュートラル達成に貢献する大学等コアリションへの参加

「カーボン・ニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」とは、2050 カーボン・ニュートラルの達成に向けて、大学が、国、自治体、企業、国内外の大学等との連携強化を通じ、国・地域の取り組みに資する研究開発や社会実装の推進、地域やキャンパスのゼロカーボン化などに係る機能や発信力を高めるための大学等間ネットワークである。本学は、地域ゼロカーボン WG 準備委員会とゼロカーボン・キャンパス WG に参加し、議論を進めてきた。

○参考情報

カーボン・ニュートラル達成に貢献する大学等コアリション : <https://uccn2050.jp/>

7. SDGs に関するテーマの講演会やセミナーの実施

本 COE 対象期間においても、引き続いて SDGs に関係の深いテーマを取り扱った講演会やセミナーを実施してきた。主な講演会やセミナー等は以下のとおり。

- ・一般公開 WEB イベント「発達障害の” 障害” は、社会のどこにあるのか？」 (2023. 7)
- ・第 7 回 TSUKUBA 憲法レクチャー「常に問い続ける～アナウンサーが考える人権」 (2023. 7)
- ・BLUE ONE BEAT! ～スポーツを通して SDGs をもっと身近に～ (2023. 5-12)
- ・ランチタイム英語交流会「Borderless Online Meeting : Global food security and SDGs」 (2023. 3)
- ・DESIGN THE FUTURE 機構設立シンポジウム「カーボンニュートラル社会の実現に向けた筑波大

学の挑戦」 (2023. 3)

- ・第 6 回 TSUKUBA 憲法レクチャー「ジャーナリストが視る沖縄と日本国憲法」 (2023. 2)
- ・第 15 回つくば 3 E フォーラム会議「2050 年カーボンニュートラルを考える」 (2023. 1)
- ・第 5 回 TSUKUBA 憲法レクチャー「女性の健康 ―リハビリテーションからのアプローチ ―」 (2022. 12)
- ・第 4 回 TSUKUBA 憲法レクチャー「ロシア・ウクライナ危機における国際法言説 ―ルールに基づく国際秩序― の擁護・批判・改革 ―」 (2022. 11)
- ・第 19 回つくば SDGs パートナー講座「生物多様性保全と『生物多様性戦略つくば』作成に向けて」 (2022. 11)
- ・DESIGN THE FUTURE 機構 SDGs 発信月間 (2022. 10-12)
- ・公開シンポジウム「個立社会の実現に向けて～社会的孤立と孤独について考える～」 (2022. 10)
- ・一般公開 WEB イベント「青年期・成人期における発達障害のある人を誰一人取り残さない社会に向けて」 (2022. 9)
- ・Tsukuba Global Science Week 2022 (TGSW2022) (2022. 9)
- ・第 3 回 TSUKUBA 憲法レクチャー「スポーツ、SDGs と人権」 (2022. 7)
- ・第 17 回つくば SDGs パートナー講座「つくばスマートシティの展望～科学技術と包摂性で日本をリードする～」 (2022. 6)
- ・第 2 回 TSUKUBA 憲法レクチャー「日本国憲法と外交」 (2022. 1)
- ・第 1 回 TSUKUBA 憲法レクチャー「コロナ禍と女性の貧困」 (2021. 12)
- ・筑波会議 2021「Inclusive Innovation for the New Normal」 (2021. 9)

8. DESIGN THE FUTURE 機構の設立

2022 年 4 月に DESIGN THE FUTURE 機構を設立した。本機構は、現在および未来社会がかかえる地球規模課題解決のために、国連が設定した持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs) やそれに継ぐ Beyond SDGs に対し、本学がどのように貢献できるかを探索し、人と地球の健全な未来の構築を目指しており、広報戦略・推進タスクフォースと“beyond SDGs”構想検討タスクフォースに分かれて活動しており、2023 年 3 月には機構設立記念シンポジウム「カーボンニュートラル社会の実現に向けた筑波大学の挑戦」を開催した。

○参考情報

DESIGN THE FUTURE 機構 : <https://www.osi.tsukuba.ac.jp/sdgs/>

【成果の測定】

1. SDGs にかかる授業科目

それぞれの授業の履修者数の実績は以下のとおり。 (人)

授業科目名	対象学生	2019	2020	2021	2022	2023 (暫定)
地球規模課題へのアプローチ	学群生	23	59	45	53	36
地球規模課題と国際社会：食料問題	大学院生	21	54	43	40	
地球規模課題と国際社会：海洋環境 変動と生命	大学院生	6	10	9	5	
地球規模課題と国際社会：社会脳	大学院生	2	4	5	6	
地球規模課題と国際社会：感染症・ 保健医療問題	大学院生	9	21	29	34	24
地球規模課題と国際社会：社会問題	大学院生	8	11	12	22	0
地球規模課題と国際社会：環境汚染 と健康影響	大学院生	21	26	58	27	18
地球規模課題と国際社会：環境・エ ネルギー	大学院生	16	21	21	18	39
合計		106	206	222	205	117

2. 地球規模課題学位プログラム (BPGI) における人材育成

地球規模課題学位プログラムではこれまでに合計 26 名 (2017 年：6 名、2018 年：7 名、2019 年 9 名、2020 年 4 名、2021 年 7 名、2022 年 3 名、2023 年 9 名) の学生を受け入れ、2021 年 9 月以降、合計 10 名の卒業生を輩出している。当該卒業生の卒業論文では、SDGs に関連させたテーマを取り上げており (以下のとおり)、プログラムの趣旨である地球規模の課題の解決に資する人材育成について一定の成果が得られている。

○BPGI 学生の卒業論文のテーマ例

The Conceptual Framework of Promoting the Internationalization of Higher Education in Taiwan and Japan.

Indonesian Bird Trend: Market, Regulations in Indonesia, and Progress towards Achieving the SDGs.

A Comparison of the Influence of Social Media Use on Suicidal Thoughts and Mental Health in Japan and Taiwan.

Gender Segregation in Public Transportation: Influence of Women-Only Carriages on the Victim-Blaming of Sexual Harassment Victims.

3. グローバルイノベーション学位プログラムにおける人材育成

グローバルイノベーション学位プログラムの 2 専攻ではこれまでに GIP-TRIAD で合計 89 名 (2017 年：13 名、2018 年：11 名、2019 年 11 名、2020 年 13 名、2021 年 15 名、2022 年 13 名、2023 年 13

名)の学生を受け入れ、合計46名の修了生を輩出している。またGIP-TRIADでは、2021年11月に食と健康に関わるグローバル課題についての公開国際セミナー「GIP-TRIAD INTERNATIONAL ONLINE SEMINAR」を開催した。

○GIP-TRIAD 学生の卒業論文のテーマ例)

Rainwater harvesting and alternative agricultural practices to improve food security in the drought prone Northern region of Ethiopia.

Algae Importance in Food and Health Global Issues.

Local infant flours to alleviate malnutrition in Senegalese young children.

A cross-continental comparative analysis of the drug access system.

4. 筑波会議 2021 及び TGSW2022

筑波会議 2021 では、地球規模課題を様々な視点から議論する 39 セッションをオンライン開催し、60 を超える国・地域より 3,000 人以上の参加者を得た。また、同会議においては、すべての人々が一体となって、科学と社会の間にグローバルな信頼関係を築くことが、ニューノーマルのための強固な基盤として不可欠であることが確認された。TGSW2022 では、コロナ禍の対応としてオンラインでのセッション開催も含め 28 セッションを実施し、およそ 1,310 人の参加者を得た。

5. 国連大学 SDGs 大学連携プラットフォーム (SDGs-UP)

2020 年 11 月の SDGs-UP 第 1 回ワークショップからこれまでに 22 回のワークショップに参加し、本学の取り組みの成果発表や他大学とのグループ討議等を通じて、本学の成果発信及び関係大学・機関との連携強化を行った。ワークショップ各回の実施報告については、

○ワークショップ実施情報

回数	開催日	参加大学数	参加者数
第 1 回	2020 年 10 月 30 日	29	72
第 2 回	2020 年 11 月 11 日	25	45
第 3 回	2020 年 12 月 15 日	28	54
第 4 回	2021 年 1 月 27 日	28	71
第 5 回	2021 年 2 月 18 日	24	49
第 6 回	2021 年 3 月 24 日	27	84
第 7 回	2021 年 5 月 12 日	26	78
第 8 回	2021 年 6 月 18 日	25	62
第 9 回	2021 年 7 月 28 日	21	58
第 10 回	2021 年 9 月 7 日	24	58
第 11 回	2021 年 10 月 8 日	25	54
第 12 回	2021 年 11 月 10 日	23	48
第 13 回	2021 年 12 月 14 日	23	51

第 14 回	2022 年 1 月 21 日	28	54
第 15 回	2022 年 4 月 26 日	非公表	非公表
第 16 回	2022 年 5 月 12 日	29	70
第 17 回	2022 年 6 月 16 日	24	45
第 18 回	2022 年 7 月 29 日	23	52
第 19 回	2022 年 9 月 16 日	27	80
第 20 回	2022 年 10 月 12 日	21	47
第 21 回	2022 年 11 月 21 日	23	54
第 22 回	2023 年 1 月 17 日	20	36

6. カーボン・ニュートラル達成に貢献する大学等コアリション

本学は地域ゼロカーボン WG とゼロカーボン・キャンパス WG に参加し、本格化するコアリションの取り組みにおいても積極的な活動を継続している。

7. SDGs に関するテーマの講演会やセミナー

【取り組み状況】7で挙げたとおり、本 COE 対象期間において SDGs に関する講演会やセミナーを多数実施することにより、本学学生、教職員、そして社会一般に向け、持続可能な成長を実現するための啓発活動を行った。

8. DESIGN THE FUTURE 機構

本 COE 対象期間中に開設した DESIGN THE FUTURE 機構 Web サイトでは、本学の SDGs に関するニュース・イベント情報を Web サイト上から自動収集・掲載しており、本学の取組みについて広く社会に発信している。

9. その他

「THE 大学インパクトランキング 2023」において、本学は国内 3 位、世界 101-200 位にランクインした。特に、次の項目では世界 100 位内に位置している。

SDG1「貧困をなくそう」 (85 位)

SDG6「安全な水とトイレを世界中に」 (75 位)

SDG11「住み続けられるまちづくりを」 (54 位)

SDG12「つくる責任、つかう責任」 (54 位)

○参考情報

THE Impact Rankings 2023 :

<https://www.timeshighereducation.com/rankings/impact/2023/overall#!>